

渋沢栄一の日記
(フランス滞在日記)を
読んでみよう

渋沢栄一（1840～1931）中学帝国書院教科書

埼玉県の農民出身で、明治維新後に大蔵省（現在の財務省）の官僚となった渋沢は、政府の殖産興業政策の柱である近代的な製糸場の設立にも関わりました。大蔵省を辞職した後は、日本初の銀行を設立し、ここを拠点として、秩父鉄道や日本郵船、大阪紡績、東洋紡績など多くの企業の創設に携わり、日本の計次回の指導者として、昭和初期まで活躍しました。関東大震災の復興や、アメリカなどとの民間外交にも貢献しました。



もう少し詳しく 渋沢栄一（1840～1931）

渋沢栄一は天保11年2月13日（西暦：1840年3月16日）、現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれました。

家業の畑作、藍玉の製造・販売、養蚕を手伝う一方、幼い頃から父に学問の手解きを受け、従兄弟の尾高惇忠から本格的に「論語」などを学びます。

「尊王攘夷」思想の影響を受けた栄一や従兄たちは、高崎城乗っ取りの計画を立てましたが中止し、京都へ向かいます。

郷里を離れた栄一は一橋慶喜に仕えることになり、一橋家の家政の改善などに実力を発揮し、次第に認められていきます。

栄一は27歳の時、15代将軍となった徳川慶喜の実弟・後の水戸藩主、徳川昭武に随行しパリの万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。

もう少し詳しく 渋沢栄一（1840～1931）

明治維新となり欧州から帰国した栄一は、「商法会所」を静岡に設立、その後明治政府に招かれ大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わります。

1873（明治6）年に大蔵省を辞した後、栄一は一民間経済人として活動しました。そのスタートは「第一国立銀行」の総監役（後に頭取）でした。

栄一は第一国立銀行を拠点に、株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、また、「道徳経済合一説」を説き続け、生涯に約500もの企業に関わったといわれています。

栄一は、約600の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力し、多くの人々に惜しまれながら1931（昭和6）年11月11日、91歳の生涯を閉じました。

渋沢栄一のフランス滞在

27歳の時、15代将軍となった徳川慶喜の実弟・後の水戸藩主、徳川昭武に随行し、パリの万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。栄一の生涯の中で、フランス滞在はちょうど節目にあたるともいえるでしょう。

つまり、日本の近代化に深く関わった渋沢栄一の発想の原点が、フランスで見聞きしたことにある、ということもできます。

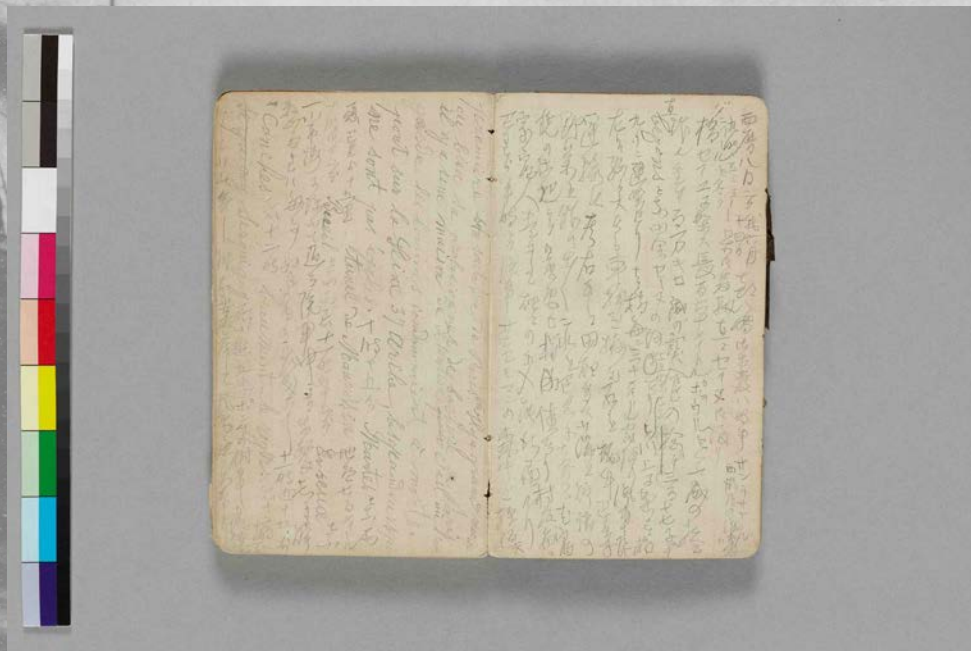
そこで、この授業では渋沢栄一がフランス滞在時に記した日記を読み解くことによって、どこで、どのようなことを見聞きしたのか、調べてみたいと思います。

フランス滞在時の日記

渋沢栄一は、フランス滞在時の事をいくつかの日記に残していますが、ここでは「渋沢栄一日記」とよばれるものを取り上げたいと思います。

右の写真を見ると、細かい字で、フランス語まじりで、びっしりと書かれていることが分かりますね。貴重な機会を活かそうと、頑張ったのでしょうか。

がんばれば読めますかね???



国文学研究資料館，渋沢栄一日記，電子資料館2021年11月26日参照

< http://basel.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002JITUHAKU_37TGH-0955-0001-0000_00 >

渋沢栄一ダイアリーについて



今回は活字化・デジタルアーカイブ化されて、公開されているものを読んでいきましょう。

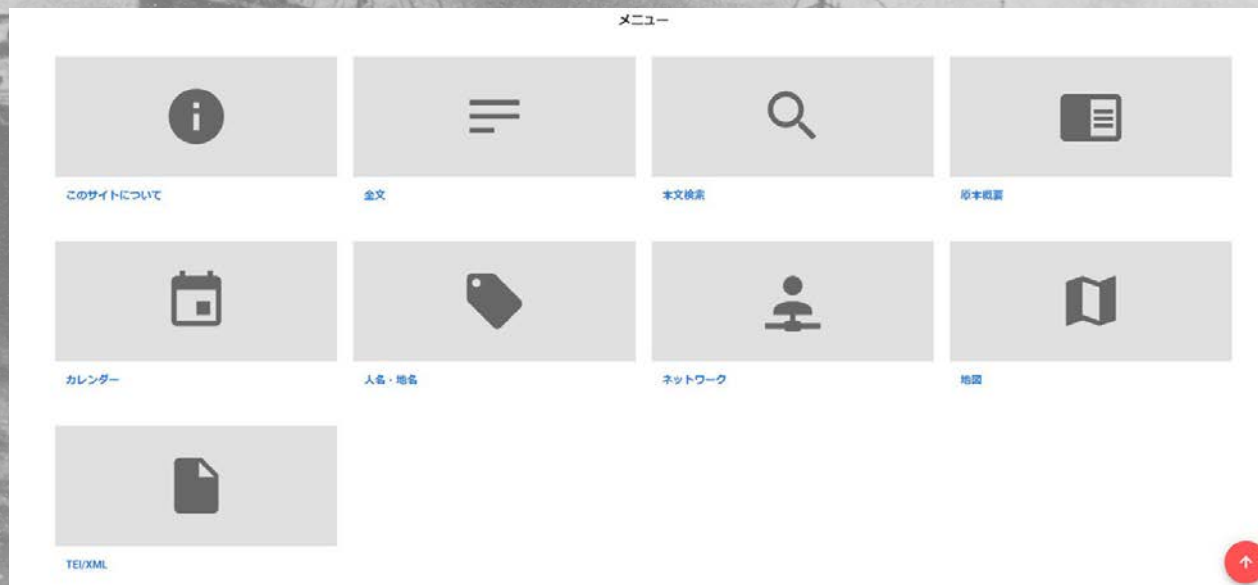
URL : <https://shibusawa-dlab.github.io/appl/>

以下スライド13までの画像も下記HPより
渋沢栄一記念財団，渋沢栄一ダイアリー，2021年11月26日参照
< <https://shibusawa-dlab.github.io/appl/> >

渋沢栄一ダイアリーについて

このデジタルアーカイブでは、右下のように彼の日記について様々な切り口で検索できるようになっています。ぜひいろいろなメニューをのぞいてみましょう。

今回は、フランス滞在時の日記を読んでいきますので、**カレンダー**を利用します。



さあ読んでみよう(1)

今回は、1868年（慶應4年＝明治元年）8月2日～8月11日の日記を読んでいます。

○この時日本では…

5月3日 江戸開城

6月10日 会津戦争開始

7月4日 上野戦争

8月4日 磐城の戦い

10月23日 慶應から明治に改元

12月4日 箱館戦争開始

大変な状況が続いています。

さあ読んでみよう(2)

カレンダーを選んでみます→以下の様な年間カレンダーが出てきます

1868年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 15	9月	10月 21	11月 30	12月 32
1869年	1月 31	2月 27	3月 1	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月 6	12月 21
1870年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

月を選んでみます→以下の様な月別カレンダーが出てきます

1868年8月							月
24日	27日	28日	29日	30日	31日	8月1日	
2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	
八月二日 木 八月十日	八月三日 金 八月十日	八月四日 土 八月十日	八月五日 日 八月十日	八月六日 月 八月十日	八月七日 火 八月十日	八月八日 水 八月十日	八月九日 木 八月十日
9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	
八月十日 金 八月十日	八月十一日 土 八月十日	八月十二日 日 八月十日	八月十三日 月 八月十日	八月十四日 火 八月十日	八月十五日 水 八月十日	八月十六日 木 八月十日	八月十七日 金 八月十日
16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	
23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	
	七月廿七日 日 八月十日	七月廿八日 月 八月十日	七月廿九日 火 八月十日	七月三十日 水 八月十日	七月三十一日 木 八月十日	八月一日 金 八月十日	八月二日 土 八月十日
30日	31日	9月1日	2日	3日	4日	5日	

さあ読んでみよう(3)

日付を選んでみます→以下の様な日記本文が出てきます

西暦 八月二日 我 六月十四日

西暦 八月二日 我 六月十四日

朝八時御出発、八時半サンラサール《西街道の汽車場》、九時五ミニユート、同所御発軔、直ニセイヌ御渡り

ダニールと名く橋セイヌに架す、長百六十メートル、ボヤウルと云ふ鉄の類二而作ル、重サ百万キ口、鉄の突合せの捻チ三百十七ネチ、直ニBezonsといふ田舎セイヌの河上に架するなり、川上に架す橋九ツ二連架せり、沓橋毎二十メートル宛あり、汽車道の左は総而大なる車輪を拵置、石を掘出し、巴里に運輸す、其右手は田畑多く、小溝を貯、諸の野菜を作り出し、これを巴里に売る、尤富饒の土地二而景色も稍佳なり、村落毎二家富、人豊にして畑々の手入能行届けり

巴里より半時二而汽車サンセルマンの森中を經過ス

premiere station de Paris. ou il y a grand marche ou bien laprobisionner 《(provision)》 de bacherie 《(boucherie)》 de Paris. il y a une maison de detention C'est ou l'on garde les hommes condamnaient 《(condamnes)》 a morts.pont sur@a Seine 37 arche, les grandeurs qui ne sont pas egales. 十時十五分Mantesといふ所着、巴里より十五里、tunnel de Manvoisin地道七百メートルといふ、十時四十五分Bueilといふ所着、十一時十五分Evreuxといふ一市街に添ひて過る、汽車中二而午餐、しかも貯整たレハ、毎事餐着の差支なし、十一時四十五分Conches着、十二時Beaumont-le-Roger着、十二時十五分Serquigny着、小憩、此辺ボナムの樹多し、土地饒にして小山多し、樹木叢茂して風色美なり、此辺藁屋chaumiere多し、女牛羊を飼ふ、昔時は多く民家藁屋を用へしが、近来政府これを禁す、これ火災を恐るゝ為なり、唯牛羊を飼ふに用ふ、此辺多く獣畜を飼養ひ、巴里に鬻ふ、此辺草野多し、牛羊を養ふbdrage 《(barrage)》を多く拵置て草野の乾燥せし節、水を草野《小水閘門》に瀧く、十二時四十分bernay 《(Bernay)》着、一の市街なり、Il y a des nombreuses fabriques des toiles第一時Saint-Mards-orbec着、一時二十分Lisieux着、繁華の地也、麻の製作所多し、巴里より四十八里、a2 heures moins 15 nous avons passe d'assez longue tunnel qui s'appelait Motte,elle a longueur de 2365 Metres第二時Mezidon着、第二時半Cain 《(Caen)》着、汽車乗替いたす、此地一市街二而連船の便あり、第三時十六分Bayeux着、第三時五十五分Lison着、四時十分Carentan着、此辺原野多く牛馬ヲ養ふ、第五時半Cherbourg着、汽車場より公子江はコロネル御供二而御旅宿御越、篤太夫、平八郎荷物に附添ホテル・デ・ヨウロツパといふ客舎に至りしか、旅客多く部屋少しとて再市街を巡り、ホテル・デ・ユニベールといふ客舎御投館、此日暑気強く、午後は殊ニ其熱を覚ゆ、シヤルプール御着後は稍凌能し、Valognesシヤルプール着、前之汽車休息所

本文表示

キャンセル

さあ読んでみよう(4)

西暦 八月二日 我 六月十四日

西暦 八月二日 我 六月十四日

朝八時御出発、八時半サンラサール(西街道の汽車場)、九時五ミニユート、同所御発軔、直二セイヌ御渡り

ダニールと名く橋セイヌに架ス、長百六十メートル、ボヤウルと云ふ鉄の類二而作ル、重サ百万キ口、鉄の突合せの捻手三百七十七ネチ、直二Bezonsといふ田舎セイヌの河上に架するなり、川上に架す橋九ツ二連架せり、香橋毎二三メートル宛あり、汽車道の左は総而大なる車輪を据置、石を掘出し、巴里に運輸す、其右手は田畑多く、小溝を貯、諸の野菜を作り出し、これを巴里に売る、尤富饒の土地二而景色も稍佳なり、村落毎二家畜、人豊にして畑々の手入能行届けり

巴里より半時二而汽車サンセルマンの森中を經過ス

premiere station de Paris. ou il y a grand marche ou bien laprobisionner ((provision)) de bacherie ((boucherie)) de Paris.il y a une maison de detention C'est ou l'on garde les hommes condamnaient ((condamnes)) a morts.pont sur@a Seine 37 arche, les grandeurs qui ne sont pas egales. 十時十五分Mantesといふ所着、巴里より十五里、tunnel de Manvoisin地道七百メートルといふ、十時四十五分Bueilといふ所着、十一時十五分Evreuxといふ一小事街に添ふて過る、汽車中二而午餐、しかも貯整たレハ、毎事餐着の差乏なし、十一時四十五分Conches着、十二時Beaumont-le-Roger着、十二時十五分Serquigny着、小憩、此辺ボンムの樹多し、土地饒にして小山多し、樹木叢茂して風色美なり、此辺蔵屋chaumiere多し、女牛羊を飼ふ、昔時は多く民家蔵屋を用へしが、近來政府これを禁す、これ火災を恐るゝ為なり、唯牛羊を飼ふに用ふ、此辺多く獣畜を飼養ひ、巴里に輸ふ、此辺草野多し、牛羊を養ふbdrage ((barrage)) を多く拵置て草野の乾燥せし節、水を草野(小水閘門)に瀦く、十二時四十分bernay ((Bernay)) 着、一の市街なり、Il y a des nombreuses fabriques des toiles第一時Saint-Mards-orbec着、一時二十分Lisieux着、繁華の地也、麻の製作所多し、巴里より四十八里、a2 heures moins 15 nous avons passe d'assez longue tunnel qui s'appelait Motte,elle a longueur de 2365 Metres第二時Mezidon着、第二時半Cain ((Caen)) 着、汽車乗替いたす、此地一小事街二而運船の便あり、第三時十六分Bayeux着、第三時五十五分Lison着、四時十分Carentan着、此辺原野多く牛馬ヲ養ふ、第五時半Cherbourg着、汽車場より公子江はコロネル御供二而御旅宿御越、篤太夫、平八郎荷物に附添ホテル・デ・ヨウロツバといふ客舎に至りしか、旅客多く部屋少しとて再市街を巡り、ホテル・デ・ユニベールといふ客舎御脱越、此日暑気強く、午後は殊二其熱を覚ゆ、シヤルプール御着後は稍凌能し、Valognesシヤルプール着、前之汽車休息所

本文表示

キャンセル

うわ、面倒そうだな…。

そんなときこそ、

黄

→時間

緑

→地名

赤

→人名

が、おおよそハイライトされています。

さあ読んでみよう(5)

合本(がっぽん)でいきましょう!

※力を合わせて協力しましょう!

※渋沢栄一は「合本主義」という言葉を用いています。これは、
「公益を追求するという使命や目的を達成するのに最も適した人材と資本を集め、事業を推進させるという考え方」

だと説明されています。

渋沢栄一記念財団、「合本主義」研究プロジェクトについて(1)、研究センター日より、
2021年11月26日参照 < <https://www.shibusawa.or.jp/research/newsletter/759.html> >

すみません。ちょっと意味が違いますが、渋沢栄一のお言葉ということで…。

実際の読み方(1)

今回は、1868年8月2日～8月11日に残された日記を読んでいます。

まず協力して地名を拾い出しましょう。8月2日を例とします。その冒頭部分。

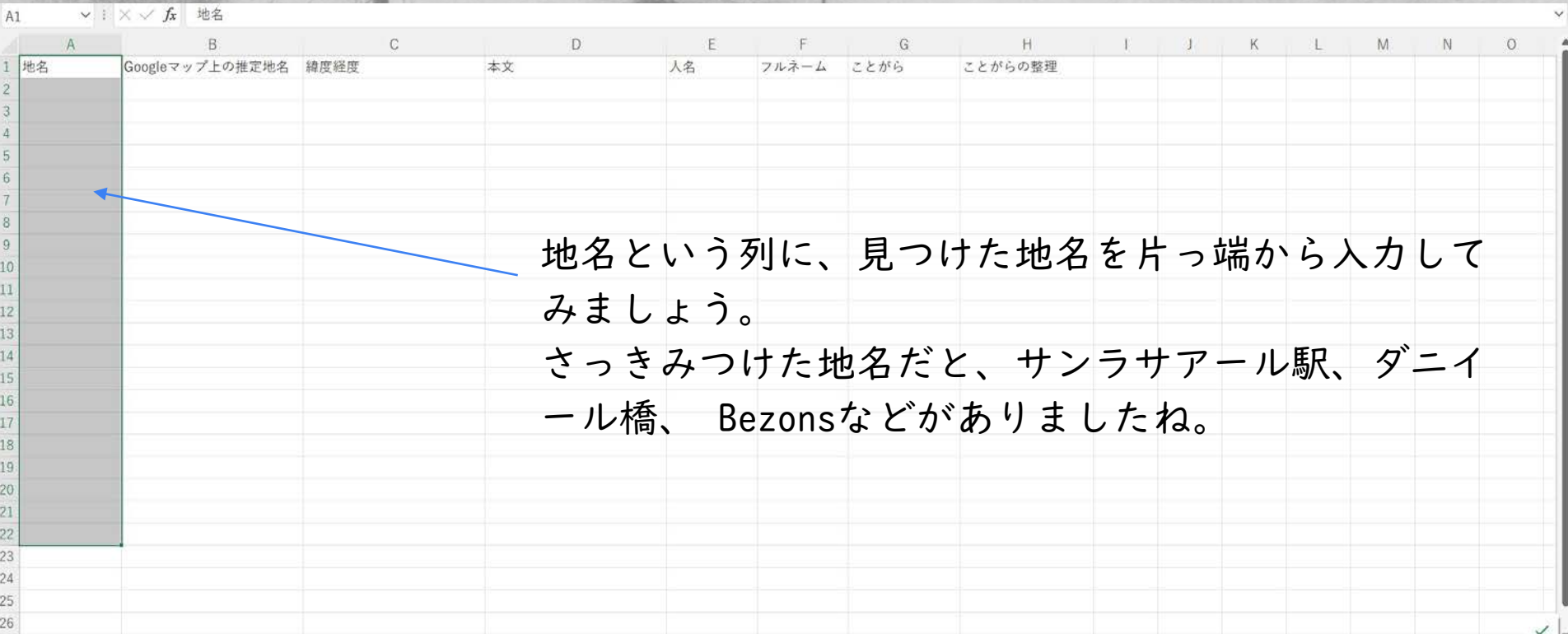
朝八時御出発、八時半サンラサアール《西街道の汽車場》、九時五ミニユート、同所御発軔、直二セイヌ御渡り
ダニールと名ク橋セイヌに架ス、長百六十メートル、ポヲウルと云ふ鉄の類二而作ル、重サ百万キロ、鉄の突合せの捻手三百十七ネチ、直二Bezonsといふ田舎セイヌの河上に架するなり、川上に架す橋九ツ二連架せり、壱橋毎二三メートル宛あり、汽車道の左は総而大なる車輪を拵置、石を掘出し、巴里に運輸す、其右手は田畑多く、小溝を貯、諸の野菜を作り出し、これを巴里に売る、尤富饒の土地二而景色も稍佳なり、村落毎二家富、人豊にして畑々の手入能行届けり
巴里より半時二而汽車サンセルマンの森中を經過ス

西街道の汽車場と書いてあれば、サンラサアールは駅名かな、
セイヌ御渡り、ダニールの名ク橋セイヌに架すとあれば、セイヌ川にダニール橋
という橋が架かっていたのかな、

Bezonsといふ田舎と書いてあれば、Bezonsは地名かな、といった感じで推測していきましょう。

→これをExcel (Googleスプレッドシート) に入力していきます。

実際の読み方(2)



1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	地名	Googleマップ上の推定地名	緯度経度	本文	人名	フルネーム	ことがら	ことがらの整理							
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															

地名という列に、見つけた地名を片っ端から入力してみましよう。

さっきみつけた地名だと、サンラサアール駅、ダニール橋、Bezonsなどがありましたね。

実際の読み方(2)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	地名	Googleマップ上の推定地名	緯度経度	本文	人名	フルネーム	ことがら	ことがらの整理					
2	サンラサール												
3	ダニール橋												
4	Bozons												
5	サンセルマン												
6	Mantes												
7	Bueil												
8	Evreux												
9	Conches												
10	Beaumont-le-Roger												
11	Serquigny												
12	Bernay												
13	Saint-Mards-orbec												
14	Lisieux												
15	Mezidon												
16	Cain												
17	Bayeux												
18	Lison												
19	Carentan												
20	Cherbourg												
21													
22													
23													
24													
25													
26													

いろいろと探していると、こんな感じでたまっていくかと思います（フランス語綴りだったり、片仮名表記だったりします）。

土地の地名だけでなく、渋沢達が立ち寄った場所（港や工場）なども入力していきましょう。

実際の読み方(3)

表の地名欄が完成したら、二手に分かれます。

→1班(地名班) 地名を地図でさがす

→2班(本文班) 地名に関わる本文を抜き出す

1班 (マップ班) の仕事 (1)

書き出した地名を、Googleマップの検索窓に入力して、検索します。

- コツ

フランス語表記の場合は、そのままズバリで出てきます。

→問題は片仮名表記の時

サンラサール駅の場合

→そのまま入力しても出てきませんね。

発音がサンラサールですから、表記はサンラサールかな、

→これだけだと、日本のサンラサールがヒットします。

そこで、パリかな、と限定していきます。すると、次のような結果がでます。

1班(マップ班)の仕事(2)

サンラザール パリ

「サンラザール パリ」の検索結果を表示しています。元の検索キーワードは「サンラザール パリ」です。

サン=ラザール駅
3.8 ★★★★★ (1,402)
駅 / 停留所 · 13 Rue d'Amsterdam
モネの描いたサン・ラザール駅そのものです。

サン・ラザール・パリ・ショッピング・センター
4.0 ★★★★★ (23,510)
ショッピングモール · 1 Cr de Rome
20:00 まで営業 · +33 1 53 42 12 54
店舗内ショッピング可 · 店先受取可

ニューホテル サン ラザール
3.0 ★★★★★ (339)
3つ星の観光客向けホテル
無料 Wi-Fi と中庭を完備するシンブルなホテル
+33 1 48 74 79 74
無料 Wi-Fi 朝食 Wi-Fi
シャワー室やエレベーターは狭いですが、値段相応かと思います。

ヒルトンパリ オペラ
1~6の検索結果を表示しています
価格について

地図の移動後に結果を更新する

このエリアを検索

サン=ラザール駅 発見

1班(マップ班)の仕事(3)

The image shows a Google Maps interface with search results on the left and a map on the right. The search results list several locations in Paris, including 'サン=ラザール駅', 'サン・ラザール・パリ・ショッピング・センター', 'ニューホテル サンラザール', and 'ヒルトンパリオペラ'. The map shows the Paris area with various landmarks and streets. Handwritten annotations in blue and black text are overlaid on the map, explaining how to find the coordinates of a specific location.

「サンラザールパリ」の検索結果を表示しています。元の検索キーワードは「サンラザールパリ」です。

サン=ラザール駅
3.8 ★★★★★ (1,402)
駅 / 停留所 · 13 Rue d'Amsterdam
モネの描いたサン・ラザール駅そのものです。

サン・ラザール・パリ・ショッピング・センター
4.0 ★★★★★ (23,510)
ショッピングモール · 1 Cr de Rome
20:00 まで営業 · +33 1 53 42 12 54
店舗内ショッピング可 · 店先受取可

ニューホテル サンラザール
3.0 ★★★★★ (339)
3つ星の観光客向けホテル
無料 Wi-Fi と中庭を完備するシンブルなホテル
+33 1 48 74 79 74
無料 Wi-Fi 朝食 Wi-Fi
シャワー室やエレベーターは狭いですが、値段相応かと思います。

ヒルトンパリオペラ
1~6の検索結果を表示しています
価格について

このエリアを検索

サン=ラザール駅
という表記を記憶

サン=ラザール駅
発見

で右クリック
一番上の数字を
クリック
→緯度経度がコピーされます

48.87640, 2.32545
ここからのルート
ここへのルート
この場所について
付近を検索
印刷
地図に載っていない場所を追加
自身のビジネス情報を追加
データの問題を報告する
距離を測定

1班(マップ班)の仕事(4)

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
	地名	Googleマップ上の推定地名	緯度経度	本文	人名	フルネーム	ことがら	ことがらの整理				
2	サンラサール	サン=ラザール駅	48.8763412500179, 2.325394659538312									
3	ダニール橋											
4	Bozons											
5	サンセルマン											
6	Mantes											
7	Bueil											
8	Evreux											
9	Conches											
10	Beaumont-le-Roger											
11	Serquigny											
12	Bernay											
13	Saint-Mards-orbec											
14	Lisieux											
15	Mezidon											
16	Cain											
17	Bayeux											
18	Lison											
19	Carentan											
20	Cherbourg											
21												
22												
23												

それぞれ、ExcelやGoogleスプレッドシートに入力します。

さあ、どんどん推定して、欄を埋めていきましょう！
どのくらい埋まるか、楽しみです！

2班（本文班）の仕事（1）

地名に関わる本文の記述を抜き出し、

Excel・Googleスプレッドシートに貼り付けていきます。

・コツ

最初に読み出した地名を区切りに考えて、細かい意味はともかく、ゆるく文章の意味がとぎれるかな、というところを探して下さい。

ちょっとむずかしいですが、ああでもない、こうでもない、わいわい楽しんでください。

2班（本文班）の仕事（2）

8月2日の最初の部分です。

朝八時御出発、八時半サンラサアール《西街道の汽車場》、九時五ミニユート、同所御発軔、直ニセイヌ御渡り

ダニールと名ク橋セイヌに架ス、長百六十メートル、ボヲウルと云ふ鉄の類ニ而作ル、重サ百万キロ、鉄の突合せの捻チ三百十七ネチ、直ニBezonsといふ田舎セイヌの河上に架するなり、川上に架す橋九ツ二連架せり、壱橋毎二三十メートル宛あり、汽車道の左は総而大なる車輪を拵置、石を掘出し、巴里に運輸す、其右手は田畑多く、小溝を貯、諸の野菜を作り出し、これを巴里に売る、尤富饒の土地ニ而景色も稍佳なり、村落毎二家富、人豊にして畑々の手入能行届けり

巴里より半時ニ而汽車サンセルマンの森中を經過ス

最初のサンラサアールは西街道の汽車場が説明ですね。

九時五ミニユートは、九時五分発車ということでしょうか
（ミニユートはミニットに似てますね）

すると、同所御発軔、直ニセイヌ御渡り、ダニールと名ク橋セイヌに架ス、という記述は、ダニール橋の説明かな、ということになります。そして、ダニール橋の記述はどこまでかな、と次に考えていきましょう。軽くおおよその意味を推測しながら、土地に関係した記述を切り出していきます。


→これをExcel（Googleスプレッドシート）に入力していきます。

2班(本文班)の仕事(3)

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	地名	Googleマップ上の推定地名	緯度経度	本文	人名	フルネーム	ことがら	ことがらの整理
2	サンラサアル			西街道の汽庫場				
3	ダニール橋			同所御発勒、直ニセイヌ御渡り、ダニールと名ク橋セイヌに架ス、長百六十メートル、ボマウルと云ふ鉄の騎ニ而作ル、直サ百万キロ、鉄の突合せの捻子三百十七ネチ、直ニBezonsといふ田舎セーヌの河に架するなり、川上に架す橋九ツニ遷架せり、各橋毎ニ三十メートル宛あり。			橋・鉄・ネチ	
4	Bozons							
5	サンセルマン							
6	Mantes							
7	Buell							
8	Evreux							
9	Conches							
10	Beaumont-le-Roger							
11	Serquigny							
12	Bernay							
13	Saint-Mards-orbec							
14	Lisieux							
15	Mezidon							
16	Caln							
17	Bayeux							
18	Lison							
19	Carentan							
20	Cherbourg							
21	ホテル・デ・ユウロツバ							
22	ホテル・デ・ユニベール							
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								

ExcelやGoogleスプレッドシートに
貼り付けます。

さあ、どんどん本文の区切りを読み取って、
欄を埋めていきましょう！



さあ、いよいよ
合本(がっぽん)です!

※たびたびすみません。渋沢栄一のお言葉ということで…。

合本作業(1)

こんな感じの表、できましたか？
うまくいっているとよいですね。

A	B	C	D	E	F	G	H	
1	地名	Googleマップ上の推定地名	緯度経度	本文	人名	フルネーム	ことがら	ことがらの整理
2	サンラサール	サン＝ラザール駅	48.8763412500179, 2.325394659538312	西街道の汽船橋				
3	ダニール橋			阿所御免船、直ニセイヌ御渡り、ダニールと名ク横セイヌに架ス、長百六十メートル、ボタワルと云ふ鉄の橋ニ而作ル、重サ百万キロ、鉄の架合せの柱サ三百十七ネチ、直ニBezonsといふ田舎セーヌの河上にあするなり、川上に架す橋九ツニ連架せり、密接者三十メートル宛あり、				
4	Bozons	ブゾン	49.92619231266565, 2.3168041518544883	汽船道の左は宛而大なる車輪を貯置、石を掘出し、巴里に運輸す、其右手は田畑多く、小溝を貯、種々の野菜を作り出し、これを巴里に売る、尤富饒の土地ニ而景色も尚佳なり、村落無二家裏、人豊にして畑々の手入能行届けり				
5	サンセルマン	サン＝ジェルマン	48.97849240655044, 2.099164351318855	巴里より半鐘ニ而汽車サンセルマンの森中を通過ス				
6	Mantes	マント	48.98916232935989, 1.7032517968990605	巴里より十五里、tunnel de Manvoisin地七百メートルといふ。				
7	Bueil	ビュエイユ	48.92556140453792, 1.4435491104886597					
8	Evreux	エブルー	49.018624017964816, 1.14959784819899366	一小市街に添ふて過る、汽車中ニ而半鐘、しかも野整たレハ、毎事侯者の整支なし				
9	Conches	コンシュ	48.962192141145813, 0.9379809367810031					
10	Beaumont-le-Roger	ボーモンジュロジェ	49.0741775698219246, 0.7724441984984111					
11	Serquigny	セルキニー	49.10789665613832, 0.7191335531301859	小畑、此辺ポナムの樹多し、土地饒にして小山多し、樹木叢茂して景色美なり、此辺高屋chaumiere多し、女半羊を飼ふ、昔時は多く民家高屋を用へしが、近來政府これを禁す、これ火災を恐るゝ為なり、唯半羊を飼ふに用ふ、此辺多く原野を飼養ひ、巴里に賣ふ、此辺原野多し、半羊を養ふbdriage ((barrage))を多く貯置て原野の乾燥せしめ、此原野(小水渠)に流す、				
12	Bernay	ベルナー	49.08711700173837, 0.0957313718005746	一の橋なり				
13	Saint-Mards-orbec	サン＝マル	49.07512587026234, 0.4608800155257404					
14	Lisieux	リジュー	49.138161215510245, 0.23117869720536827	藍草の地也、麻の製作所多し、巴里より四十八里、a2 heures moins 15 nous avons passe d'assez longue tunnel qui s'appelait Motte,elle a longueur de 2365 Metres				
15	Mezidon	メジドン	49.07084466910673, 0.0750605201018593					
16	Cain	カーン	49.17826364492188, 0.0000000000000000	汽車乗替いたす、此地一小市街ニ而運船の便あり。				

埋まっていなくていいところがあってもかまいません。

このデータを
Googleマップに
流し込んでいきます。



二つの成果が
合本される時が
きたのです！

合本作業(2)

- ① Googleマップを開き、左上の三本線をクリック、マイプレイスを選択します。
- ② 保存済みの下、マイマップのタブを選択します。
- ③ 一番下の地図の作成をクリックします。すると、下のような地図が出ます。



合本作業(3)

ウランハートル
Ulaanbaatar

洗沢栄ーフランス巡検
最終編集: 数秒前

レイヤを追加 共有 プレビュー

無題のレイヤ
インポート

このレイヤに場所を追加するには、描画するかデータをインポートします。もっと詳しく

基本地図

中華人民共和国
西安市
成都市
重慶
昆明市
广州市
东莞市
香港
Hong Kong

作成したファイルをドラッグ

インポートするファイルの選択

アップロード | Google ドライブ | フォトアルバム

CSV、XLSX、KML、GPX ファイルをここにドラッグします

または...

デバイスのファイルを選択

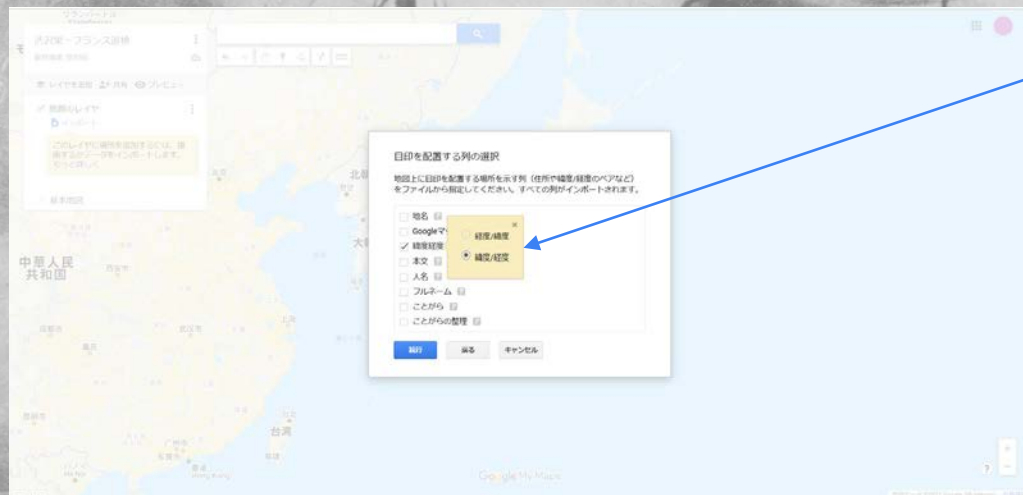
選択 キャンセル

Google My Maps

地図データ ©2021 Google, SK telecom - 利用規約

合本作業(4)

目印を配置する列の選択で、緯度経度を貼り込んだ列を選択。
書き順は緯度/経度

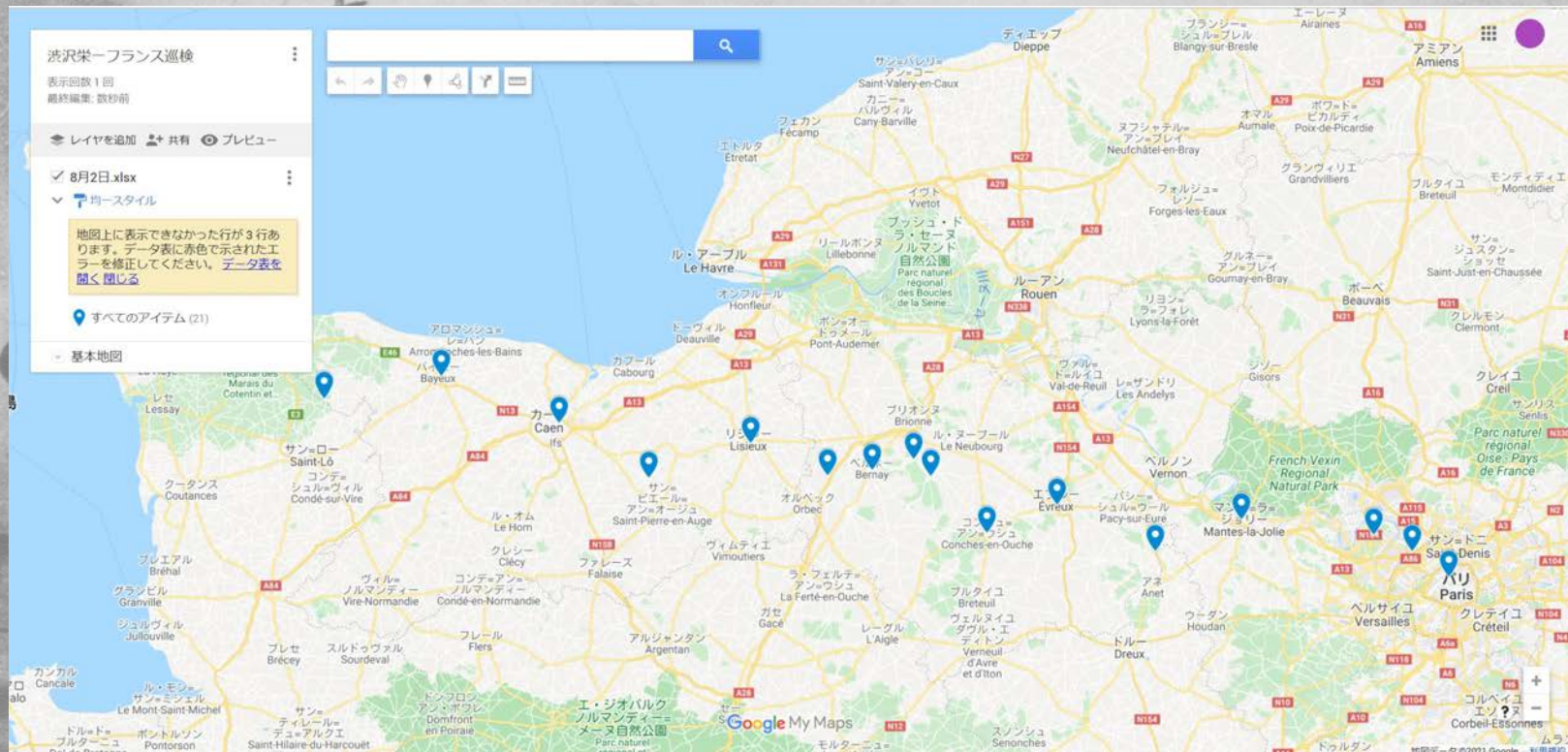


マーカータイトルとして使用する列で、本文から抜き出した地名の列を選択。



完了すると...

合本作業(5)



こんな地図が完成します！合本完了！

合本作業(6)

渋沢栄一フランス巡検

表示回数 1 回
最終編集: 数秒前

レイヤを追加 共有 プレビュー

8月2日.xlsx
均一スタイル

地図上に表示できなかった行が3行あります。データ表に赤色で示されたエラーを修正してください。データ表を聞く閉じる

すべてのアイテム (21)

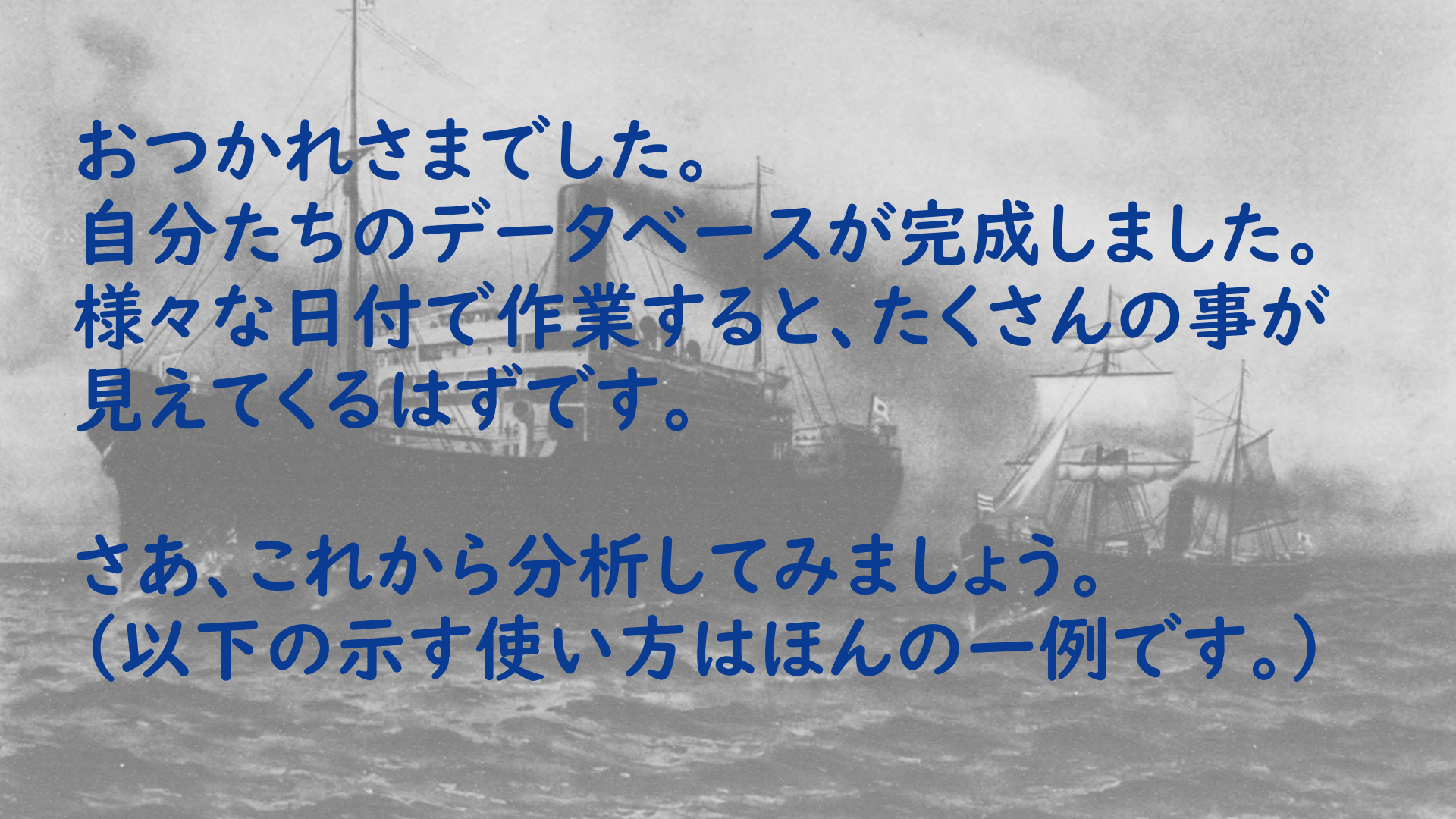
基本地図

Lieux	Googleマップ上の推定...	緯度経度	本文	人名	フルネーム	ことからの整理
	リジュー	49.1381612, 0.2311787	繁華の地也、麻の製作所多し、巴里より四十八里、a2 heures moins 15 nous avons passe d'assez longue tunnel qui s'appelait Motte,elle a longueur de 2365 Metres	値なし	値なし	値なし
				値なし	値なし	値なし

1班 (地図班) の成果の
マーカーと、

2班 (本文班) の成果の本文
が

みごとに合本しました！自分たちのデータベースの完成です！



おつかれさまでした。
自分たちのデータベースが完成しました。
様々な日付で作業すると、たくさんの事が
見えてくるはずですよ。

さあ、これから分析してみましょー。
(以下の示す使い方はほんの一例です。)

自分たちでつくったデータベースを使ってみよう(1)

○渋沢栄一たちがたどったルートを味わおう

純粹に地図上で追えるのは楽しいですね。

○彼らが見た風景を想像してみよう

本文をさらっと読んで、Googleマップの基本地図を衛星写真にしてみましよう。

○分からなかった地名を推定してみましよう

ダニール橋はどこだと思いますか？などなど…。

自分たちでつくったデータベースを使ってみよう(2)


○本文が場所と結びついて見えてきたことをまとめよう

マップのことがらの欄に本文中の気になる単語を抜き出して書き込んでみよう。
(田畑・船・森・牛などなど)

○そこに誰がいたのか調べてみよう

本文から人名を抜き出して、マップの人名欄に記入しよう。その人物名を調べて、フルネームの欄に記入しよう。

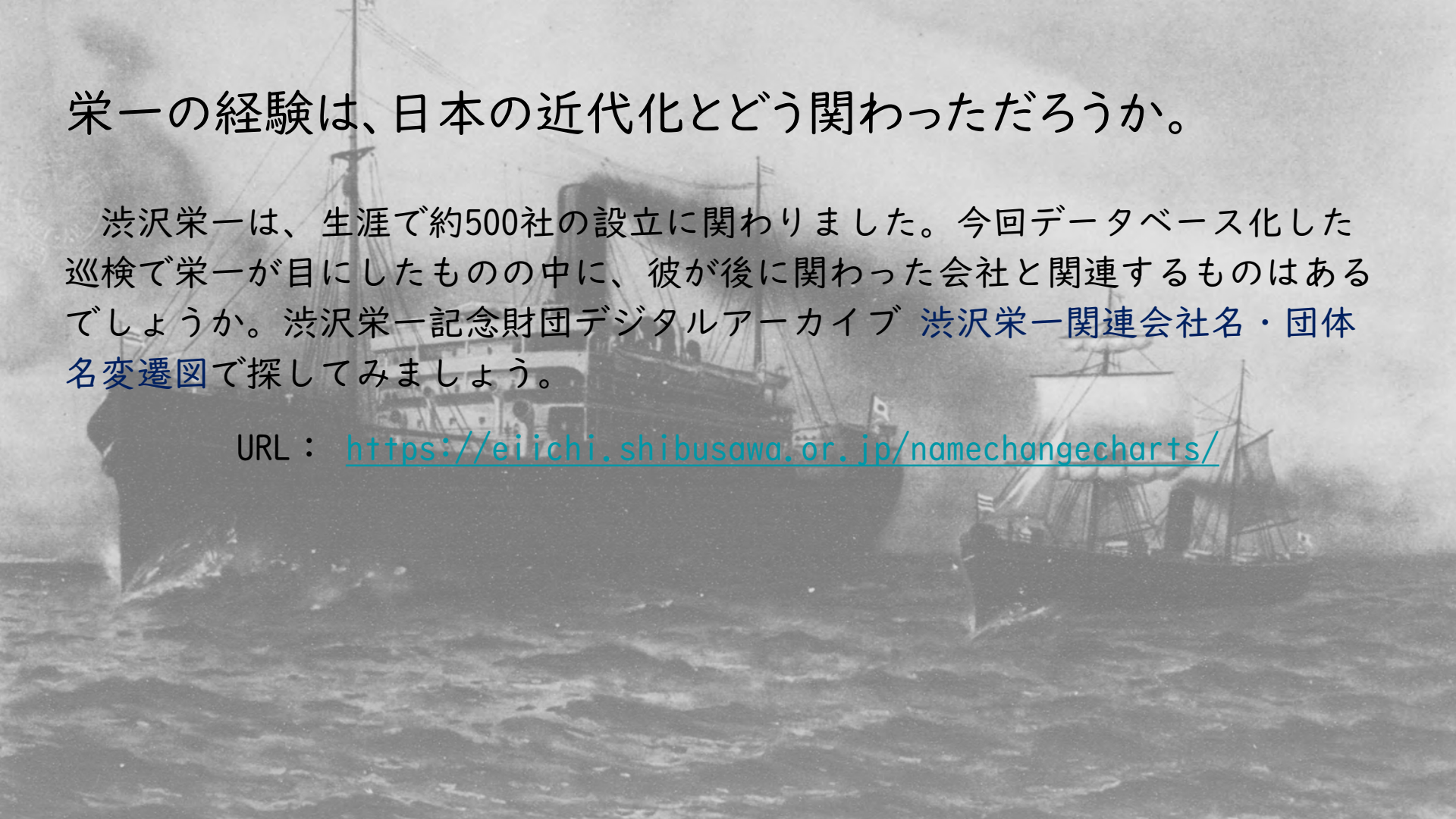
地図化したことで見えてくること、どんどん相談してGoogleマップに蓄積して行ってください。



栄一達は、フランスの何を見たかったのだろうか

渋沢栄一達は、何に関心を持ち、何を見たのか、自分なりにまとめてみよう。

そして、彼の関心はその後どこへ向かったのか。



栄一の経験は、日本の近代化とどう関わっただろうか。

渋沢栄一は、生涯で約500社の設立に関わりました。今回データベース化した巡検で栄一が目にしたものの中に、彼が後に関わった会社と関連するものはあるでしょうか。渋沢栄一記念財団デジタルアーカイブ [渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図](#)で探してみましょう。

URL : <https://eiichi.shibusawa.or.jp/namechangecharts/>

さらに知りたい場合

今回は限られた素材で渋沢栄一について考えてきました。さらに深く知りたい場合は、渋沢栄一記念財団の他のデジタルアーカイブも利用してみましょう。今回の経験が、新たな発見につながりますように。

渋沢栄一記念財団のホームページ

URL : <https://www.shibusawa.or.jp/>

先生方へ(今回のねらい)

今回の教材化では、幕末期の日記という生徒にとってとっつきにくい素材を、地図を介し、自分たちでデータベースを作成することによって、少しでも身近に感じてもらうことを目的にしています。そして、自分自身で作成したというプロセスを経て、自分なりの考察を深めてもらうことを意識しています。

渋沢栄一が日本の近代化の中で大きな役割を果たしたことは大変有名なことですが、彼が直接書き記したものを通じて、そのベースとなった知識や経験を感じてもらえればと思っています。

先生方へ(この資料について①)

この日記は、幕府への復命を目的に書かれたもののようです。これを元に書かれたと思われる『渋沢栄一 巴里御在館日記』が別に残されています。同じく渋沢栄一財団の渋沢栄一伝記資料デジタルアーカイブで見ることができますが、少し探すのが大変ですので、この資料の最後に添付しておきます。

渋沢栄一に関わる資料は膨大で、教材化担当者（高橋傑）の把握はかなり雑なものだと自覚しております。あらかじめお詫び致します。

また、この日記には、ところどころフランス語が混ざっていますが、教材化担当者（高橋傑）の力が及ばず、一切言及できませんでした。日本語文とは異なる情報が含まれています。もしよろしければ、ご教示下さい。

先生方へ(この資料について②)

今回取り上げたシェルブールへの巡検は、特別な事情の中で行われました。明治新政府から昭武に帰国を命じる命令が届いたのです。これにどのように対応するか、使節一行はフランス政府へ今後について打診したり、新政府への返書を準備したりします。

それらの返事を待つ間、一行はフランス国内を旅行することになりました。つまり、まもなくフランスを離れるかもしれない、最後にいろいろと見ておく必要があるかもしれない、というような心境で、旅行をしていたということになります。

先生方へ(この資料について③)

このシェルブール行きは、『巴里御在館日記』によると、7月30日に決まったようで、「来西曆八月二日御出立、シャルブールブレスト御旅行之積。治定いたす、」とだけ記されています。そして、8月1日に「御旅行御供之儀、篤太夫・平八郎・コロ子ル被仰付候事」とあり、渋沢栄一（篤太夫）が旅行のお供を命じられていることがわかります。フランス滞在中のとりたてて大きな旅行ではありませんが、このような経緯で栄一が日記を付けることになりました。

渋沢栄一は、行く先々で軍事施設を見学するとともに、車窓から見える農村風景や人々の暮らしの様子にも目を向けています。生徒達がこれらの記述から、栄一の関心に目を向け、帰国後の栄一の動向や、日本の近代化について、考えるきっかけになれば、幸いだと思っています。

参考文献『渋沢栄一、パリ万国博覧会へ行く』（渋沢資料館、2017年）

先生方へ(この資料について④)

今回取り上げた部分は、渋沢栄一日記と呼ばれる日記の中で、最も古い部分です。1868年(慶應4年=明治元年)8月2日~8月11日のあらましですが、

8月2日 パリを出発し、シェルブールに到着

8月3日 シェルブール周辺の港湾施設や台場等の軍事施設を見学

8月4日 カーンへ移動、周辺の見学、メジドンを経由して、ル・マンに投宿

8月5日 ル・マンから、レンヌ・サン＝ブリュエを経由してブレスト着

8月6日 ブレスト周辺の軍事施設を見学

8月7日 ブレスト周辺の軍事施設を見学

8月8日 カンペールへ移動、ロリアンを経由してナントに投宿

8月9日 ナント周辺を見学

8月10日 サン＝ナゼールに移動、見学、バヌ＝アンドルに移動して製鉄所を見学

8月11日 トゥール・オルレアンを経由して、パリに到着

先生方へ(技術的なサポート)

○Googleクラスルームを導入している学校

スプレッドシートはGoogleアカウントで生徒達が共有し、マップづくりも生徒達が行い、マップも共有して編集することが可能です。但し、マップが最初に完成した段階で、いちどKMLファイルに書き出させ、そのファイルを教員が保存しておいた方がよいと思います。また、スプレッドシートの共有で遊んでしまう生徒が多数いた場合、このやり方は厳しいかもしれません。

○マイクロソフトオフィスをスタンドアロンで使う場合

生徒には必要な事項を列に記入済みのファイルを配布し、教員がデータを統合したりする必要があります。マップへの流し込みも教員がやることとなりますが、プロジェクターに映すと、少しは盛り上がるでしょうか。マップはKMLで書き出して生徒に配布し、GoogleマップやGoogleEarthで利用することになります。

※KMLへの書き出しは、地図名の横の…(立て並び)をクリックすると、KML/KMZへのエクスポートというメニューがあります。マップで読む場合は、KMLがよいでしょう。KMZはGoogleEarthで利用するファイルです。

※いずれの場合も、学校がGoogle関連のサービスへのアクセスを禁止していると、難しいです。

資料編



① 渋沢栄一 日記

渋沢栄一記念財団，渋沢栄一ダイアリー，2021年11月26日参照
< <https://shibusawa-dlab.github.io/appl/> >

② 渋沢栄一 巴里御在館日記

渋沢栄一記念財団，渋沢栄一伝記資料，2021年11月26日参照
< <https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryō/digital/main/> >

① 渋沢栄一 日記 (1)

西曆 八月二日 我 六月十四日

朝八時御出発、八時半サンラサール《西街道の汽車站》、九時五ミニユート、同所御発軔、直ニセイヌ御渡り

ダニールと名ク橋セイヌに架ス、長百六十メートル、ポワウルと云ふ鉄の類ニ而作ル、重サ百万キロ、鉄の突合せの捻ヅ三百十七ネヅ、直ニBezonsといふ田舎セーヌの河上に架するなり、川上に架す橋九ツニ連架せり、壱橋毎ニ三十メートル宛あり、汽車道の左は綫而大なる車輪を拵置、石を掘出し、巴里に運輸す、其右手は田畑多く、小溝を貯、諸の野菜を作り出し、これを巴里に売る、尤富饒の土地ニ而景色も稍佳なり、村落毎ニ家富、人豊にして畑々の手入能行届けり

巴里より半時ニ而汽車サンセルマンの森中を經過ス

premiere station de Paris, ou il y a grand marche ou bien laprobisionner 《(provision)》 de bacherie 《(boucherie)》 de Paris. il y a une maison de detention C'est ou l'on garde les hommes condamnaient 《(condamnes)》 a morts. pont sur @a Seine 37 arche, les grandeurs qui ne sont pas egales. 十時十五分Mantesといふ所着、巴里より十五里、tunnel de Manvoisin地道七百メートルといふ、十時四十五分Bueilといふ所着、十一時式十五分Evreuxといふ一小市街に添ふて過る、汽車中ニ而午餐、しかも貯整たレハ、毎事餐着の差支なし、十一時四十五分Conches着、十二時Beaumont-le-Roger着、十二時十五分Serquigny着、小憩、此辺ポンムの樹多し、土地饒にして小山多し、樹木叢茂して風色美なり、此辺藁屋chaumiere多し、女牛羊を飼ふ、昔時は多く民家藁屋を用へしが、近來政府これを禁す、これ火災を恐るゝ為なり、唯牛羊を飼ふに用ふ、此辺多く獸畜を飼養ひ、巴里に鬻ふ、此辺草野多し、牛羊を養ふbdrage 《(barrage)》を多く拵置て草野の乾燥せし節、水を草野《小水閘門》に灑く、十二時四十分bernay 《(Bernay)》着、一の市街なり、Il y a des nombreuses fabriques des toiles 第一時Saint-Mards-orbec着、一時二十分Lisieux着、繁華の地也、麻の製作所多し、巴里より四十八里、a2 heures moins 15 nous avons passe d'assez longue tunnel qui s'appelait Motte, elle a longueur de 2365 Metres 第二時Mezidon着、第二時半Cain 《(Caen)》着、汽車乗替いたす、此地一小市街ニ而運船の便あり、第三時十六分Bayeux着、第三時五十五分Lison着、四時十分Carentan着、此辺原野多く牛馬ヲ養ふ、第五時半Cherbourg着、汽車站より公子江はコロネル御供ニ而御旅宿御越、篤太夫、平八郎荷物に附添ホテル・デ・ヨウロツパといふ客舎に至りしか、旅客多く部屋少しとて再市街を巡り、ホテル・デ・ユニベールといふ客舎御投館、此日暑氣強く、午後は殊ニ其熱を覚ゆ、シャルブル御着後は稍凌能し、Valognesシャルブル着、前之汽車休息所

① 渋沢栄一 日記（2）

八月三日 晴 六月十五日 月

朝八時御旅宿御発、御歩行ニ而海岸なる砲台及軍艦製造其外海軍製造所御越《大砲彈玉共》、アルスナル入口ニ而老人の士官を雇、案内為致

第一スーフレン製艦所、二造船器械製造所《レブアルジュ》、三フランドリー《同器械製造所》、四海岸台場一覽、五乾潮満潮其外海波の動静を知る器械一覽、軍艦貯所御一覽、軍艦凡拾式艘但蒸気老艘毎ニ砲百門を載ス内三艘は鉄船、次にサルダルム御巡問製造に掛りたる軍艦御一覽、長百式十メートル、高サ式十五メートル巾式十五メートル、尤広大なり、軍艦に用ゆる木細工所、大砲彈製作所御越、次に小銃製作所御越

Rochambeauといふ鐵船御一覽、蒸気千三百馬力、大砲式十五門但三百ポント一時十三より十五ヌー

諸方御一覽済、第十二時御帰館

第一時三十五分御發、プラスダルム馬車ニ而御行過、初代那破翁の銅像あり、其貌英国を指シ、此湊を維持する様ナリ、夫より海岸の海入場を添ふて昨日到着せし汽車場を通り、此地は岩山多し、道巨嶺に添ふて甚峻ナリ、路傍にいと大なる岩山あり、其嶺に一の石にて築立たる台場あり、シヤープール四万五千人、尤fortduRoule山は総而若石ニ而道路屈曲せり、凡十丁斗にして巖にいたる、巖に大なる■台あり、千八百五十三年の製造といふ、兵卒の陣屋彈薬の貯所備れり、此台場は港を攻る兵の山裏より来るを禦く為なりといふ、砲台は土台場ニ而砲門はまた備へず、第二時半山を下り、第三時湊口ニ而小船に乗組、第三時三十五分海中築立之台場着、上陸、築立台場長凡壹里余、巾七八間、総而山石ニ而築立たり、其砲長く築立たる堤の如し、尤石少し屈曲あり、石砲台四ヶ所、小大同しからず、尤製造は総而石ニ而製作したり、此台場海岸より凡壹里半計なる海中江人力もて埋立、如此築城したりといふ、凡百年余に至り、また全備せずといふ、四ヶ所の砲台之内、壹ヶ所Centralといふ砲台江登り、御一覽、此砲台砲門三重になせり、最上と二段目とは砲拾四門を備置けり、但八十ポント程其下は稍少し、實ニ宏壯を尽せり、海中の深淵を埋立たりといふしか《（ひ）》、一見ニ而は真《（信）》し難き程なりし、其長堤石台場より右にニツの広大なる台場あり、其一をアンペリヤールといふ、其一をデフラマンといふ、其距離凡一里足らずなり、アンペリヤールは尤広大二而、砲四百五十門を備置りといふ、石砲台の左に当り、又一の砲台あり、都合セツ海面に向へ築立たり、内海の海軍局に添ふて式三箇の壮大なる砲臺あり、総而旧年の製作なれば、山石ニ而築立、彈玉の破撃せし節は摧破すへしといへとも、其歳月を積て如此く成功せしは尤人功天造に勝るとも言ふべき程なり

第《（行カ）》

J'avais resolu de renouveler a Cherbourg les merveilles de l'Egypte.

第五時半御帰宿、七時御夜餐、御夜餐後海辺御遊歩、此夜御案内之カピティン江被下物送り遣す

① 渋沢栄一 日記 (3)

八月四日 六月十六日 曇 火

第七時旅宿を御発し、一昨日到着せし汽車場ニ而汽車乗組、第八時十五分発軔、十時半頃細雨、十一時十五分カン着、ホテル・デ・アングレテイルといふ客舎御投館、第一時御旅宿を御発し馬車ニ而市街中にある陣馬飼置所御一覽、厩四棟、厩棟凡百式十宛の馬を入置けり、外ニ病馬口所《(養力)》、鉄沓及馬手入等整たり、夫より市街を行過、第二時半カンより三里、Fontaine-Henriといふいと古き城に着、此地昔時仏国封建たりし時、去ル諸侯の住居せし由、其城郭小高き所ニ而水を帯、然も昔時は堅固に見へたりし、今は唯富農の住居にして昔日の姿はなしといふ、第三時四十五分帰路を取り、第四時半カン帰着、此日馬車中の往返路傍に農夫の耕作する様、麦、菜種其外の作為せる風情、御国の田家と其趣の類せるを見ても殆幽情を催す、第四時カン御着より市中及小湊、古寺、遊歩場其外御巡覽、四時半御帰宿

市中に小き河あり、舟船ニ湊《(輻)》す、小湊をなす、此地人口四万八千人第六時二十分カン発軔、第七時Mezdon《(Mezidon)》といふ処ニ而小憩し、夕方より雲晴天氣朗清なり、On quitte au Mezdon《(Mezidon)》 la ligne de Paris a Cherbourg, pour aller prendre au Mans, la ligne de Paris a Brest. Cet imbranchement《(embranchement)》 passe par Alencon, chef-lieu du departement de l'Orne. 夜第十一時半マン着、十二時投宿いたす《hotel du dauphin》

① 渋沢栄一 日記（4）

八月五日 六月十七日

朝十時半午餐、第十一時四十分御旅宿を御発、昨日到着せし汽車場ニ而汽車乗組、第十二時半発軔、第十一時leGuillaumes着、第三時五十分Rennes着、小休、汽車乗替、此日午後甚暑し、第七時St-Brieuc着、小夜食、第十二時Brest着、夕方より雨Brest Hotel de province

① 渋沢栄一 日記（5）

八月六日 六月十八日 木 昨夜より雨

朝九時頃より本地有名の古城御一覽、第十一時午餐、第十二時より海岸の海軍器械製造所御越、造船場、軍艦入用の鉄具製作所、トツク、小銃大砲の囲置所、帆縄組立所、其外種々広大の器械御一覽、第四時頃御帰館、此日終日空曇り霧多く時々雨降りし故、海岸の方江御越はなし第六時頃、篤太夫巴里江書状差出す

① 渋沢栄一 日記（6）

八月七日 朝雨夕晴 六月十九日 金

午後第二時半港口御越、舟を雇へ海中を乗廻し、ブリタニーといふ大軍艦の碇泊せる辺を乗廻し、港口御一覽、本港は入口甚隘く、僅壺里不足之《（衍）》ニ而両縁之山特角し、恰も人の造作せることし、港内の丸く湾になりて尤深しといふ、周圀凡九里程ありといふ、仏人曰、シャルブールは《（エ）》人功もて成せる地にて尤堅牢なれとも、ブレストは天造の要領之地なりと、所以《（マ、）》に諸事宏壯を極メしはブレストの方其勝るを覚ゆ

第六時半御帰館、明日当地御出立之積、理装いたす

① 渋沢栄一 日記 (7)

八月八日 晴 土 六月廿日

朝第七時半旅宿御発し、第十一時quimpel 《(Quimperカ)》着、C'est une assez belle ville ou il y a, a Cote de cette ville, une grande figuer 《(Figuier)》 qui a couvert la terre 《(de)》 6000 metres 《(sic)》 de cares 《(carres)》 par son ombre, 第一時半

lorient 《(Lorient)》午餐、第七時Nantes着、Hotel de France御投宿、当地は巴里より仏国西南地方江運輸する沿道ニ而頗る繁華の地也、人口拾壺万六千、市街の広さ五里周圍ありといふ、
[] 《(原本欠字)》といふ河市中を流れ海江注く、海運も尤便利なり、御旅館は市中の央ニ而尤壮大且美麗なり la loire ■ la rade 《(la Loire)》

① 渋沢栄一 日記（8）

六月廿一日 晴 八月九日 日

午前御休息、第十二時より馬車二而市中御遊覧、古寺院、古城、市民の遊歩華園、
画額の貯所等御越、逐一御歴覧、第四時御帰館

御夜餐後第七時半、市中御遊歩、河涯御散歩二而御帰館

① 渋沢栄一 日記 (9)

八月十日 晴 六月廿二日 月

朝第七時御旅館御発、市街に添たる川口ニ而、ロヲワルの川口ニ而乗合船に乗船、第七時二十分
発程、船中の眺望尤絶佳なり、第十一時二十分サンナゼール着、河岸に添たる羽戸場より御上陸、
海岸御巡覧、船入場にある広大之飛脚御一覽《(船脱力)》、夫より汽車場御越、暫時御休息

第一時二十分同所発軻之汽車御乗組、第三時十分バースアンドルといふ地御着、夫より製鉄所御
一覽、此製鉄所は総而蒸気船の器械也

Basse-Indre 《(Basse-Indre)》, Indre † St-Nazaire

Manuqaeture 《(Manufacture)》

① 渋沢栄一 日記 (10)

八月十一日 曇 六月廿三日 火

朝六時半客舎御発し、第七時発軔之汽車御乗組、第十一時Tours着午餐、二時五分Orleans第四時三十分巴里ガアルデヲレヤン御着、三輪端蔵、小遣召連馬車《を備》ニ而御出迎□□《(為スカ)》、直様馬車御乗組、第五時三十分御帰館

② 渋沢栄一 巴里御在館日記(1)

六月十四日 晴 日

八月二日

御支度も整ひぬれは八時御旅館御発、馬車ニ而サンラザルミ瀛車場御越、九時五分御発軔、コロ子ルより瀛車掛り役人に申談、瀛車は別格ニ而乗合之ものなければ車中鬱陶の憂なし、直にセイヌの橋上を渉る、此橋は長百六十メートル総て鉄ニ而造立せり、程なくブゾンといふ里を通り、再びセイヌの橋上を經過す、其橋九ツに連架せり、每橋三十メートルありといふ、此辺は土地も饒にて、田舎も屋を潤せり、瀛車の右ニハ広き畑ありて、多く野菜を作る、其左は各所に大きな車輪を建置、石を掘出し巴里に鬻ぐといふ、稍行過て右手に大なる森を見る、サンセルマンの大森なりといふ、十時十五分マントといふニ而小休、直ニ発軔ニ而一の地道長七百メートルあるを經過す、第十一時車中ニ而午餐、しかも貯品の多ければ十分に喫了、尤愉快なりし、第十二時十五分セルキングユ著、小憩此辺はポム樹多く、ポム酒を作る、樹木の叢茂せる小山多く、田家其間に聚落し、小河ありて村落を廻り流る、頗る清絶なり、又藁屋多く、其中に女牛馬を飼ふ、昔時は民家多く藁屋なりしか火災を恐るゝ為政府ニ而これを禁し今は牛羊の小屋に用ゆといふ、草野多く牛、馬、緬羊の類を多く飼ふ、第二時前十五分一の大なる地道を過る、長サ式千三百六十五メートルありといふ、第二時半カンといふ地著、瀛車乗替、直ニ発軔、第五時半シールブル著、瀛車場は《(よりカ)》公子はコロ子ル御供ニ而御先に客舎に被為越しか、其客舎は旅人多く部屋なしとて、市街を巡り漸にして一の客舎を得御投館、ホテルドレニベルセイルといふ客舎 篤太夫・平八郎も荷物を調べて稍後れて達す、此日朝来美晴炎熱之憂なかりしか、午後ハ暑氣甚しく、殆旅苦を覚ゆ、御夜餐後市街御遊歩海辺に築出せし小店ニ而カツフヘー被召上御帰館

② 渋沢栄一 巴里御在館日記(2)

六月十五日 晴 月

朝八時客舎御発、御歩行ニ而製鉄所御越、尤一同御供いたす

本地の製鉄所ハ市街の南辺ニ而海に接せし処に在之、尤広荘なり。製鉄所の門前ニ而コロ子ル相識之壱人之士官に行逢、夫より同人御案内ニ而御歴覧有之、最初ニ造船所御一覽、四ヶ所ニ連築せり、其中ニツは造船中なりしか其一は尤広大の軍艦なり、長百二十メートル高サ五メートル巾二十五メートル程なりと覚へし、夫より鉄器械製造所、反射鎔鋸炉等御一覽、及軍艦に用ゆる材木の細工等御覧、夫より台場御越、砲台は石ニ而築立、広壯なりしか其妙を究メざるを覚ゆ、砲は平常の三四十ポント位ニ而数多く並立たり、夫より潮の乾満海の動静を見る器械等御一覽、軍艦修覆所ニ而ロシアンブロウといふ惣鉄船御越、千三百馬力大砲凡三百ポント之筒、廿五門程載す、一時間十三ヌーより十五ヌー走るといふ、此港は軍艦輻湊之ために設けしなれば、さして美麗なる製作所はなけれども、海軍の器械は総而行届けり、当時輻湊の軍艦五十艘もあり其中鉄艦五六艘ありといふ、第十二時、御一覽済御帰館、午餐第一時半、再び御発し、馬車ニ而プラスダムといふ市街の海に接せし処御通り、其海岸に初代那破列翁の馬上ニ而英国を指せし銅像あり、英人これかために不快といふ、海岸を御巡覧交易之港御通ニ而ルウルといふ岩石山に御登り、其岩石上にある砲台御一覽、此砲台は敵の上陸して市街近傍の裏手より砲発を防く為なれ、砲台の製海岸に向はす、岩山は尤突兀として其巔に砲台を設けしなれ、自然の天嶮を存せり、尤台場の製は全備といへかたし御一覽後再海岸御越、小舟御乗組第三時半海中築出之石台場御著、此築出し台場は港口より壱里余海中の尤深き処江其形長堤のこたく石ニ而築立たり、堤の長サ壱里半余四ヶ所の砲台あり、丸く石砲塔のこたく、長堤之巾四間もあるべく、二段に築立、高き段に大砲を備置けり、長堤の鼻頭にある石台場の右なる海中に一の巨大なる砲台アンヘリヤルと名く、砲四百五十門を置といふ、其外海岸に添ふて左右に四五ヶ所の砲台あり、其長堤の内は軍艦の備所ニ而當時は碇泊も少かりしか、時ありては数百艘を碇泊すといふ、御一覽済、第五時半御帰館御夜餐後市中御遊歩、此地人口四万六千程ありといふ、

八月三日

② 渋沢栄一 巴里御在館日記(3)

六月十六日 曇 火

八月四日

第七時客舎御発し、一昨日到着之瀛車場ニ而瀛車御乗組、八時十五分発軻、十時半より小雨来第十一時十五分カン著、ホテルデアングレテイルといふ客舎御投館、午餐後馬車ニ而市街を御遊覧市外にある陣馬飼置所御一覽、厩四棟每棟二百二三十宛、其外ニ病馬養所手入所秣置所行届けり、夫より市街を行過て田舎に出、ホンテンアンリイといふ古城御越、田舎道三里程ありといふ、此城は昔時当地を領せる諸侯の居城といへしか、廓門の構いと警備なりし態を存せり、御一覽済第四時半カン御帰著、古城廊小湊古寺院杯御遠見此人口四万八千人ありといふ、夜餐後第六時カン御発軻、第七時メストンといふ処ニ而巴里よりシイールブールの鉄道を替、巴里よりブレストの鉄道を取る、夜十一時半マン御著、ホテルジユトウハンといふ客舎御投宿

② 渋沢栄一 巴里御在館日記(4)

六月十七日 晴 水

午餐後客舎御発第十二時半発軻之瀨車御乗組、夜第十二時ブレスト御著、ホテル
ドプロバンスといふ客舎御投宿、此日午後甚暑之車中其堪兼《(難カ)》きを覚
ゆ

八月五日



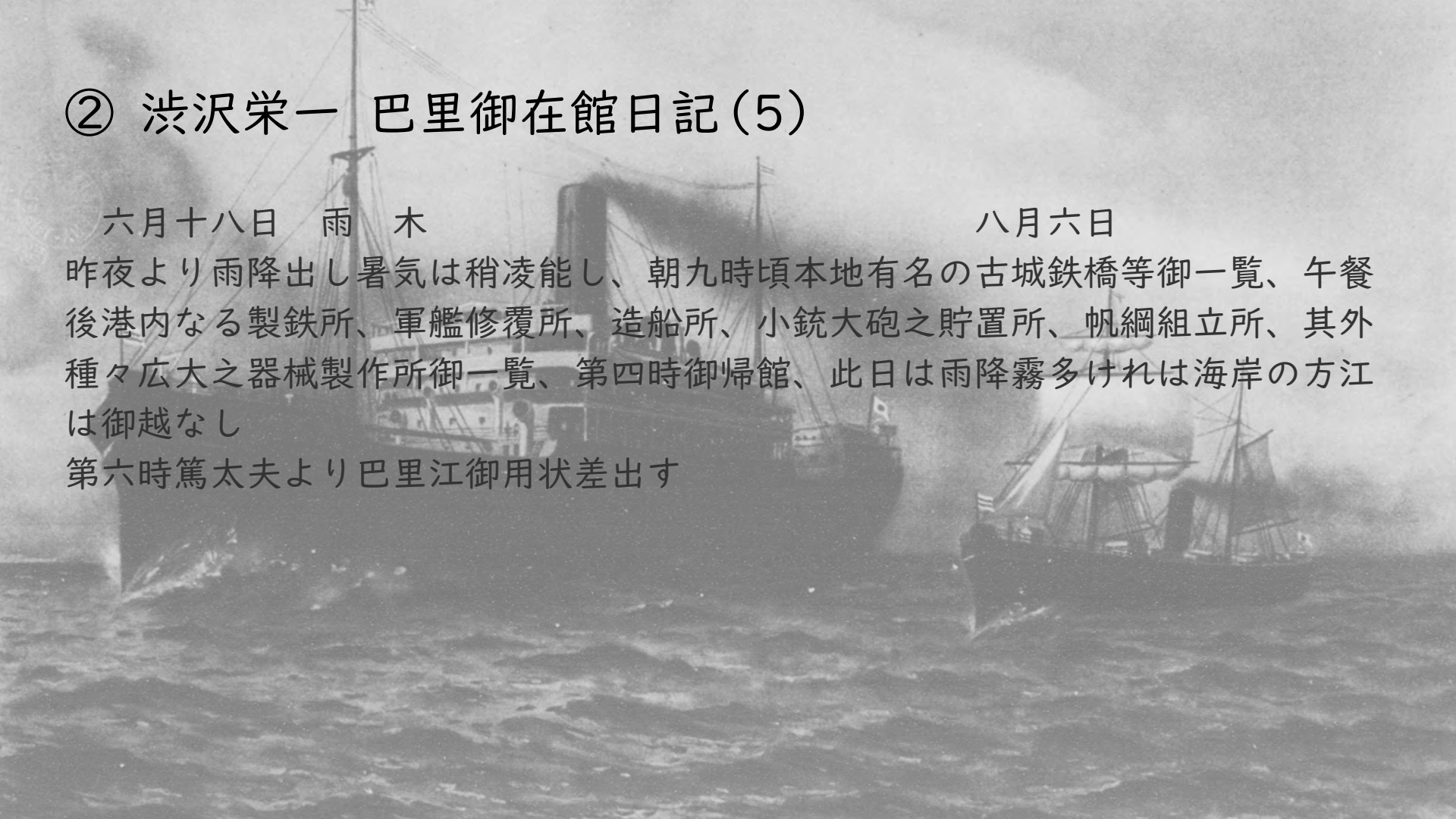
② 渋沢栄一 巴里御在館日記(5)

六月十八日 雨 木

昨夜より雨降出し暑気は稍凌能し、朝九時頃本地有名の古城鉄橋等御一覽、午餐後港内なる製鉄所、軍艦修覆所、造船所、小銃大砲之貯置所、帆綱組立所、其外種々広大之器械製作所御一覽、第四時御帰館、此日は雨降霧多ければ海岸の方江は御越なし

第六時篤太夫より巴里江御用状差出す

八月六日



② 渋沢栄一 巴里御在館日記(6)

六月十九日 朝雨夕晴 金

八月七日

雨歇たれば午餐後第二時港口御越、小舟を雇へ海中を乗廻し、港内御巡覧、此港内は周圍九里余も有之、水丈尤深く、天造の大港軍艦四百艘を容るといふ、港口は左右とも岩山に突出し恰も瓢口のごとく港口には巨大なる軍艦三艘当時運用に不便なるを碇泊し置、水軍士官教練をなさしむ、其尤大なるはブリダニイといふ船ニ而仏国第一の巨艦なりといふ、仏人曰く、シヤルブールは切要之港、砲台之造築等実に天造を犯すといふほとなれとも、ブレストの自然の嶮岨に如すと、真二天嶮の要地なるを覚ゆ、第六時御帰館、御帰路は元の羽塘場御上陸、夫より新港ポウルナポレヤン御巡覧、夫より市街に遶圍せし宏壮なる台場を御一覽ニ而御帰宿

② 渋沢栄一 巴里御在館日記(7)

六月廿日 晴 土

八月八日

朝ブレスト御発、第七時半発軔之瀛車御乗組、第十一時キャンペールといふ所御著、此辺は海に接近して風色宜し、市街の南涯の海に接せし所に大きな《(な力)》一軸の樹あり其葉繁茂して其影六千《(十)》メートルありといふ、夜第七時ナント御著、ホテルドフランス御投館、此地は巴里より仏国西南地方江の沿道ニ而尤繁華之土地なり、市街の延蔓せしこと凡五里程あり、人口も拾壺万六千人ありといふ、市中を裁して一の河あり、ロワールといふ貿易の船艦サンナザルといふ港より来り、運輸便なれば交易も盛なりといふ御投宿も市中の央にて諸事の設待も稍行届けれ《(り)》

② 渋沢栄一 巴里御在館日記(8)

六月廿一日 晴 日

第十二時より馬車ニ而市中御遊覽、先ナウトルダムといふ寺院御一覽、夫より河涯を添ふて古城に至る、此城は千四百年前余本州を領せし諸侯の築成せしといふ城中御一覽、奇事なし唯建築は総而大なる石ニ而堅牢なり、今は政府ニ而不用なる武器杯貯置といふ御一覽済、奇古の寺院御越夫より市民遊息の華園御越、暫時御散歩又画額貯所御越、奇麗なる額面数多御一覽、第四時御帰館御夜餐後市中御遊歩、河涯御散歩ニ而御帰宿

八月九日

② 渋沢栄一 巴里御在館日記(9)

六月廿二日 晴 月

八月十日

朝第七時御旅館御発、サンナザイル御越とて市街中の河口ニ而乗合の川蒸瀛御乗組、七時二十分発船、此日船中甚暑からず眺望尤佳なり、下流に随而川中広く其河の海に注く所に至り而は恰も壺里余の川中あり、第十一時二十分サンナゼリル著、波塘場より御上陸海岸船の所等御一覽、夫より広大なる飛脚船の碇泊しありしを御一覽、此飛脚船メキシコ北亜墨江航す船なりといふ、同地は近来新規造築せし市街ニ而戸々清白なり、往年はロワールの河深く大艦直ニナント江著せしか河瀬広くなるに随ひ、砂を注き遂に港はサンナセイルに造築し小船もて運輸すといふ、第一時同所瀛車場ニ而瀛車御乗組、第三時十分パアスアンドルといふ処ニ而蒸瀛船に用ゆる器械製作所御一覽、此製鉄所は総而蒸瀛船に用ゆる鉄器械之製造ニ而甚広大にはあらされとも、其製作之順序全備し每事能行届けり、第七時ナント客舎御帰館

今夜御国之御用状到着いたす、巴里江相廻す、江城は今以官兵滞軍御家名之儀は何とも被仰付無之旨申越す。北方諸侯王命を拒み追々は戦争可相成由私状等ニ而申越有之

② 渋沢栄一 巴里御在館日記(10)

六月廿三日 雨 火

八月十一日

朝六時半客舎御発し、第七時発軔之瀛車御乗組、第十一時ツウルといふ地ニ而午餐、第二時五分ヲレヤンといふ市街を經過す、此市街は昔年英人の仏国を襲ひし節、シヤンドルクといふ十八歳之少女當時の仏王に申立謀を以てこれを守り、少女之号令ニ而英人と戦争大勝利、遂に市街を取返せりといえり
第四時半巴里ガアルデヲレヤン著、御迎之馬車も罷出、三輪端蔵小遣召連罷出ければ、直様御乗組第五時半ハツシイ御旅館御帰著